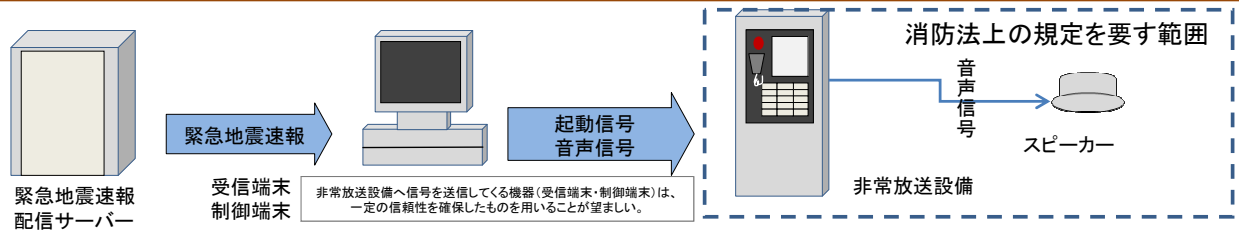


「大規模地震に対応した消防用設備等のあり方に関する検討会」
における検討状況について

～ 緊急地震速報に対応した非常放送設備における課題 ～

総務省消防庁

緊急地震速報に対応した非常放送設備における課題



非常放送設備は緊急地震速報のために設置するものではないため、設置者が任意の上で緊急地震速報に対応した非常放送設備を設置することとなるが、社会的なニーズの高まりから、緊急地震速報に対応した非常放送設備の仕様を一般化しておく事が望ましいと考えられる。

本検討会において、緊急地震速報に対応した非常放送設備の仕様を提案する上で、右のような課題が考えられる。

課題	対応案(事務局案)
○火災放送と緊急地震速報の優先性	○いずれの場合においても緊急地震速報を放送したのち火災放送へ移行する。(次ページ参照)
○アンプが立ち上がるのに数秒かかる。	○建物使用時は常時通電状態にしておく。
○放送内容等について	○報知音(シグナル) NHKの報知音とする(ただし周辺環境により聞き取りづらい場合はREICの報知音でもよい)。
	○放送メッセージ ・緊急地震速報受信時 「緊急地震速報です。強い揺れに警戒して下さい。」 (cf.火災時:火事です。火事です。○階で火災が発生しました。落ち着いて避難して下さい。) ・キャンセル報受信時 「先ほどの緊急地震速報は、誤りでした。ご安心ください。」 (cf.非火災時:さきほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異状がありませんでした。ご安心ください。)
	○繰り返し回数 『報知音(シグナル)×2回』+『放送メッセージ』を1セットとする。 緊急地震速報放送時に火災信号を受信した場合は、緊急地震速報を最低2回繰り返し返し、火災放送へ移行する。
○放送範囲	○全館一斉鳴動とする。

緊急地震速報に対応した非常放送設備における課題

想定イメージ

※原則条件

『報知音×2回+放送メッセージ』を1セットとし、

緊急地震速報放送時に火災信号を受信した場合は、緊急地震速報を最低2回繰り返し返し、火災放送へ移行する。

一般的な想定

緊急地震速報受信後に火災が発生した場合

発生事象	●緊急地震速報受信	○地震到達	◆火災発生
放送状態	緊急地震速報放送	停電	火災関係放送
電源状態	常用電源	非常電源	非常電源

稀な想定 ①

火災放送中に緊急地震速報を受信した場合

発生事象	◆火災発生	●緊急地震速報受信	○地震到達	◆火災延焼中
放送状態	火災関係放送	緊急地震速報放送(火災放送中断)	火災関係放送(再開)	
電源状態	常用電源	非常電源	非常電源	非常電源

稀な想定 ②

緊急地震速報と火災放送が同時に入力された場合

発生事象	◆火災発生	●緊急地震速報受信	○地震到達
放送状態	緊急地震速報放送	火災関係放送	
電源状態	常用電源	非常電源	非常電源